

情報通知

研究課題名:循環器疾患患者における下肢機能の包括的評価である Short Physical Performance Battery (SPPB)の縦断的变化の解明 -身体機能および日常生活動作の改善度との影響-

研究の実施体制:五十嵐 達也(責任者)、宮田 一弘(茨城県立医療大学 助教)、田村 俊太郎(公立藤岡総合病院 理学療法士)、猪熊 正美(群馬県立心臓血管センター 理学療法士)、服部 将也(群馬県立心臓血管センター 理学療法士)、谷 友太(沼田脳神経外科循環器科病院 理学療法士)、伊藤 祐輝(沼田脳神経外科循環器科病院 理学療法士)、森下 篤(沼田脳神経外科循環器科病院 医師)

研究の目的:心疾患は死因の第2位であり、死亡数全体の約15%を占めています。心疾患に対して、入院早期から身体機能やADL能力の低下に関連する因子を把握し、機能改善に向けたリハビリテーションを実施することは、医療費の削減、対象者の身体機能・生活の質(QOL)の維持・向上において重要です。下肢機能の包括的評価の代表的な1つに、Short Physical Performance Battery (SPPB)があります。SPPBスコアの改善は、再入院率・死亡率の減少との関連性が報告されています。身体機能の改善や低下などの縦断的な経過は患者様によって異なり、その内訳や割合に関する報告はされていません。これらを明らかとすることは、患者様の身体機能の予後予測や介入戦略の立案に有益な知見となると考えられます。本研究の目的は、入院中の心疾患患者様における身体機能の変化と、それに関わる背景因子を明らかにし、理学療法を行う際の予後予測や治療介入を行う際の基盤となる知見を明らかにすることです。

研究の対象:2020年4月~2023年4月の間に共同研究実施施設に心疾患にて入院し、リハビリテーションを実施した患者様とします。3施設の診療録データベースの情報をそれぞれ見返して、情報を集めさせていただきます。対象となることを希望されない方は、最下部の連絡先までご相談ください。

収集する情報:年齢、性別、身長、体重、疾患名、術式(手術をした場合のみ)、発症日、既往歴、転帰、歩行補助具の有無、入院回数、血液生化学データ、心臓超音波検査、SPPB(身体機能)、握力、歩行速度、心不全重症度、ADL介助量、認知機能となります。

情報の保管および破棄、情報公開の方法:データを解析する段階では、個人を特定できる情報は含まれません。検査結果はExcelへの出力およびID番号を用いて対応表にて管理します。ファイルはパスワードでロックし、HDDは施錠可能な室内にて保管します。研究終了後(令和5年度末)のデータの取り扱いとして、デジタルデータはいかなるソフトウェアでも復元できないようPC上で完全に削除します。

見込まれる医学上の貢献:理学療法を行う際の予後予測や治療介入を行う際の基盤となる知見が明らかとなる可能性があると考えております。

研究に関する問い合わせ先:

群馬県沼田市栄町8番地、0278-22-5052(内線5401) 沼田脳神経外科循環器科病院
リハビリテーション課 担当者:五十嵐達也、谷 友太、伊藤 祐輝